

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己評価 (4点満点)	学校関係者からいただいた 評価・意見等	改善策 ※左欄(学校関係者からいただいた評価・意見等)を踏まえた改善策には、 <u>下線</u>
心豊かにたくましく生きる 神戸の子供を育む	生き生きと咲く前進する若宮小子ども	元気	大きな声で気持ちのよい挨拶・返事ができる。	教職員が率先して行うとともに、計画委員会による毎朝のあいさつ運動のおかげで、進んであいさつをする児童は増えてきた。しかし、いつでもどこでもあいさつの声が響き渡るとまではいっていない。	2.6	挨拶は身につけさせたい習慣である。学校の指導だけではなく、家庭生活の中で饒けることも、大切である。地域では子供に声をかけることと、大人同士の挨拶も励行したい。大人がよいモデルになることが大切である。また、関係者を紹介したり、挨拶の意味や目的を子供に伝えることも必要である。	登下校時を中心に継続的に挨拶の指導を行っていく。挨拶の意義や意味を子供に理解させ、自ら人とコミュニケーションをとる力を伸ばしていく。家庭や地域に協力を求め、挨拶を交わすことが安心感につながるようにしていきたい。
			健康で安全な暮らし方を身につける。	遊具の使い方や廊下、階段の歩き方について高学年を中心に継続して指導を行ってきたが、校舎内で走る児童はどの学年にも一定数いて、まだまだ課題が残る。	2.6		
		やる気	みんなのためになる活動ができる。	各学級での係活動や高学年の委員会活動で積極的に取り組むよう指導を継続した。教師主導なのが課題である。	2.6	授業参観での様子を見ると、集中して課題に取り組む姿が見られた。学年によって違いがあると思うが、よい取組が全校に広まるとよい。行事を通して、子供の成長を感じることができた。	高学年の活動の中・低学年が知る機会を作ることにより、みんなのために意欲をもって粘り強く活動に取り組めるようにする。学級や委員会によっても偏りがあるので、学校全体で意識をそろえたり、各委員会が活動の発表の機会を設けたりするなど、子どもたちがモチベーションを高めて、自己有用感の醸成に努める。
			最後までねばり強く取り組む。	学習への取組の差が大きく、学年や個人に応じた指導を行った。学年末には課題に対して粘り強く取り組む児童が増えてきたが、苦手な事から逃げてしまう児童(特に高学年に多い)も一定数いるのが現状である。	2.5		
		思いやり	やさしい言葉遣いができる。	友達への言葉遣いについて、教科指導や道徳などを通して継続して指導を行ったが、暴言が日常的になっており課題が残った。	2.2	同学年だけでなく、異学年の子供とのふれあいや、地域の方との交流など、人と人との関わりの中で、思いやりの心は育まれる。そうした機会を増やすとともに、来校して子供と触れ合う機会を増やしていきたい。	友達に対する言動について、人権教育として道徳や各教科の中で実践していくために年間計画を立てる。また、日常の中で教師がモデルを示し、思いやりのある言動や伝え方について子どもたちと一緒に考えていく。
			相手の気持ちを考えて、誰とでも仲良くする。	ペア学年の活動などを実施し、相手の気持ちを考える機会を多くもったことで下級生に対しては優しく接することができたが、同学年に対しての言動には課題が残った。	2.7		
		算数グループ	自ら考え、伝え合う授業づくり	今年度は、より自主的な研修組織にするために「低・中・高」グループでの全体授業ではなく、「テーマ別グループ」の研修を実施した。全体授業では個に応じた指導ができていて、子どもたちは生き生きと授業に取り組むことができた。教科によって支援の方法やICTの活用法は変わってくるので、更なる研究を引き続きすすめていく必要がある。	3.3	社会の変化に伴って、教育も急激に新しいことが入ってきている。そうしたことに対応しなければならぬので先生は大変であると感じている。	教師の研修活動は仕事の一部である。自己研鑽に努めるとともに社会の変化に対応する力を高めていく。個々が課題意識をもち、意欲的に参加できる研修を計画実践していきたい。また、校外の研修にも積極的に参加し、技術や知識を高める。
		発達支援グループ	ユニバーサルデザインな授業づくり		3		
		ICTグループ	ICTを活用した授業づくり		3.5		
安全・地域・安心で共に楽しい学校づくりを築き、		①いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)		毎週末、各学級の現状や配慮の必要な児童について報告を行い、教職員間での児童理解と未然防止に努めた。また、保護者等への対応が必要な事案には、報告、連絡、相談の体制を作り、複数で対応した。	3	いじめ防止については、特に強い課題意識をもって、家庭・地域・学校が連携して取り組む必要がある。	毎年度、報告・連絡・相談体制を確認し、未然防止に取り組む。毎月開催しているいじめ問題対策委員会は、経過を注意深く見ながら、組織的継続的にいじめ解消に向けて尽力する。
		②超過勤務時間の削減・効果的な有給休暇の取得		回覧板を活用し、会議の時間短縮を行った。意識改革に向けて研修を実施した。その成果もあり、退勤時間が全体的に早くなった。超過勤務も減っている。	3.5	教員の負担軽減が言われているが、まだまだ教職員は忙しすぎると思う。	業務改善の視点をもって、学校での取組を見直していく。すぐに改善が難しい内容についても、長期的・計画的に手立てをうち、改善を図っていく。
		③新型コロナウイルス感染症関連		行事等は昨年度に引き続き、感染防止に気をつけながら企画、運営をすることができた。その成果もあり、新型コロナウイルスによる感染拡大や学級閉鎖は無かった。	3.5	感染症対策について、社会全体が緩和の方向で動いている。地域行事も少しずつ開催できるようになっている。	社会全体が緩和の方向であるが、地域や学校内の実態に応じて、感染症対策を検討していく。
		④「すぐー」の活用、ホームページにおける情報発信		ホームページで、学校生活の様子を各学年まんべんなく、毎日のように発信した。重要事項については、すぐーで保護者に周知することができた。	3.7	必要な情報発信がなされている。	すぐーの導入・活動により情報の発信や共有の方法が整理された。これからも有効に活用したい。連絡事項を確実に保護者へ届ける。ホームページによる学校生活の様子発信も無理のない範囲で続けていく。
		⑤登下校時の見守り運動(PTA・青少協など)		教職員による登下校時の見守り活動は毎日しているが、PTA・青少協による見守り運動はしていない。PTA・青少協と職員とのコミュニケーションを構築していく必要がある。	2.5	なかなか具体的な活動となっていないが、保護者や地域の方が協力して見守り活動に行いたいとの思いはある。	家庭と地域と学校が連携して、継続的に子供を見守る体制づくりや取組を模索していきたい。
		⑥学校生活のルールや決まり(校則など)について		教師の見守りや声掛けがないと、ルールを守れない児童が多い。自分達からルールを守ろうとする意識が芽生えるように、粘り強く伝え続ける必要がある。	2.6	きまりが守れていない子供を見かけると、価値観の多様化や家庭の事情など、先生の指導が大変だと感じる。難しいことも理解できるが、規律を大切にほしい。	学校のきまりは、ねらいや意図が合理的で、納得して守れる内容になっているか、現状に対応したものになっているか、毎年見直しを行っていく。
		⑦学力の向上、体力の向上についての取組み		毎朝の体幹トレーニングも3年目に突入し、体力向上に努めている。朝の学習時間では漢字と計算を中心に取り組んでいる。ただ、学力は向上しているとはいえず、なかなか定着しないことが課題である。	2.8	学力向上については、授業改善や家庭との連携を通じて、継続的に取り組んでほしい。コロナ禍の影響による子供の体力低下が心配である。	体幹体操をこれからも継続して行い、体力向上姿勢改善の両面を図る。2・3年生を中心に基礎学力の充実のため、放課後学習を計画する。
人がつながり、みんなの学校づくりにも創る		①学校評議員会との取組みの違い		運営委員の方に「推進フォーラム」や「活性化フォーラム」へ参加していただきながら、運営協議会の役割や目指す方向性への理解を進めている。教職員も含めて運営協議会について、より理解を深めていく必要がある。	2.8	フォーラムに参加した方が協議会の中で感想や情報を発信共有することが必要である。	フォーラムの資料を活用し、他校の実践を参考にしながら、運営委員や教職員の理解を進めていこうと考えている。学びながら活動を進め、本校に合った取組を創造していきたい。
		②育てたい子供の姿の共有		コロナ禍を経て、社会が大きく変化し、子供を取り巻く環境も影響を受けている。そうした実態を踏まえて、未来を切り拓きたくましく生きていく子供を育むために、「育てたい子供の姿」を協議し、共有を図っている。	3.2	家庭と地域と学校と、「育てたい子供の姿」を活発に議論することが大切である。	それぞれの立場から考える「育てたい子供の姿」を出し合いながら、「心豊かにたくましく生きる人間」育成につながる「子供像」を描き共有していきたい。
		③親しみやすい学校づくり		新型コロナウイルスの影響で保護者や地域の方が来校される機会が減っている。その間、教職員の異動もあり、「親しみやすさ」について課題意識をもちながら、学校づくりに取り組んでいる。	3.8	挨拶が関係づくりの第一歩である。忙しいとは思うが、学校内で出会ったときには、教職員の皆さんから進んで声をかけていただけたと嬉しいう。	親しみやす学校づくりの第一歩は、親しみやすい教職員である。新年度はコロナ禍からの「復興」を目指して、保護者や地域の方に子供の様子や学校の状況を見ていただく機会を設けていく。親しみやすい雰囲気づくりを心がけたい。
		④子供を育む活動		地域性やこれまでの関わり、各運営委員の考えも多様である。「子供のために」という思いや温かさを共有しながら、具体的な活動を模索している。	3.5	コロナ禍が落ち着いてきているので、積極的に来校し、連携を深めていきたい。子供たちや学校のことを知ることが大切だと、改めて感じている。	保護者や地域の方と連携を図りながら、持続可能な活動となるような取組を計画していく。